保育・教育政策のなかで語られる「発達」とは

企　　画：　日本発達心理学会第 35 回大会準備委員会
中山留美子・石井 僚・堀麻佑子（奈良教育大学）
司　　会：　中山留美子　（奈良教育大学）
話題提供者：　掘越紀香　（国立教育政策研究所）
八並光俊 #　（東京理科大学）
指定討論者：　遠藤利彦　（東京大学）
藤村宣之　（東京大学）

[企画主旨]

学校教育では，ますます「個々の特性に応じた対応」が重視されるようになっている。幼稚園教育要領では，総則において，「幼児の生活経験がそれぞれ異なることなどを考慮」した，「幼児一人一人の特性に応じ，発達の課題に即した指導」を行うことが謳われている。初等中等教育においては，令和 4 年 12 月に「個別最適な学びの実現」や「発達支持的生徒指導」を強調する形で生徒指導提要が改訂された。発達心理学における学術的知見は，こうした、求められる学校教育の理論的・実証的基盤として，また，実践的示唆を与える知見として，さらに注目度を増すことが期待される。

一方で，発達心理学が学校教育にどのように貢献してきたか，そして貢献していくことができるかは，発達心理学者として考えていく必要がある。例えば、集団による一斉教育を意図して体系化されたカリキュラムなど，従来の学校システムにおいて，個の特性や発達に応じた指導がどのように可能になるのか，その具体像が見えている研究者や実践家は多くはないと思われる。「個に応じる＝個別対応」という単純な対応関係ではない中で，カリキュラムや政策等のマクロな視点も含めた議論が必要になるであろう。また，これまで標準的な発達の理解や個別の発達の理解（アセスメント）を支える基礎的知見を提供してきた発達心理学が，今後の学校教育に向けて何を期待されているのかについて、考えていく必要がある。

本シンポジウムでは，幼児教育，初等中等教育政策における「発達」の捉えについて，政策課題についての研究・議論に直接関わってこられた八並光俊先生（「生徒指導提要の改訂に関する協力者会議」座長），幼児教育・保育の実践や研究等に携わられてきた掘越紀香先生（国立教育政策研究所幼児教育研究センター）をお招きして，政策的メッセージや今後の発達心理学研究に期待されていることの解説をいただく。また，指定討論者として，子どもの発達研究の第一線で活躍される遠藤利彦先生（社会・情緒的発達），藤村宣之先生（認知発達）をお招きし，研究を通して発達する子どもたちをみられてきたお立場から，政策への問題意識や提案をお示しいただく。政策的メッセージへの理解を深めると共に，学校教育段階での発達臨床，発達研究に関わる活発な議論を行う機会としたい。

※本シンポジウムは学校心理更新対象ポイント（Ａ）の対象となる予定です。全時間受講することでポイントが付与されます。当日は引換証をお渡ししますので，会員証等，会員番号のわかる資料をご持参ください。